

「にっぽんの元氣は畳から」



全日本畳事業協同組合

H29年4月13日

## 特別展「茶の湯」に畳の展示協力



全日畳では、東京国立博物館平成館にて開かれる特別展茶の湯(H29.04.11～06.04)に展示される、藪内流茶室「燕庵」(えんなん)に敷かれた畳の展示協力を行いました。

毎日新聞社・NHK が主催して行われるこの展示は、茶の湯に纏わる国宝や重文の名品いわば室町・桃山時代から確立された、錚々たる茶の湯の名品を一堂に展示しました。これだけの名品が揃うのは何と37年ぶりということです。

事業委員会の教育情報事業の一環として、主催者に全面協力をさせて頂きました。畳表は熊本県蘭業生産販売振興協会のご協力により、農林水産大臣賞を過去3度受賞されている氷川町の早川猛さんに「涼風」で製織して頂きました。またこの茶室が岐阜県土岐市にあった事もあり、表替え施工は岐阜の石河事業委員長に引き受けて頂きました。

4月13日、石河事業委員長そして藤本技能推進委員長が茶室の視察に東京国立博物館平成館を訪れました。古田織部ゆかりの燕庵は「窓」を多く配置した茶室として知られていますが、見事なライティングに照らされた茶室に「涼風」が浮かび上がっていました。



藪内流は風炉の時期でも小間の鍵畳を丸畳には交換せず、炉板と呼ばれる厚めの板をかぶせてその上にお茶碗を出したり拝見の道具も並べます。今後もこのような日本の文化である「茶の湯」を通じた畳のすばらしさを発信して行きたいと考えております。



